

# 高油価期を経た後の現在のLNG価格

以前に比べて上昇。LNG輸入支払いは年5,000億円規模で上振れ

日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット  
エネルギー・経済分析グループ 研究主幹 | 柳澤 明

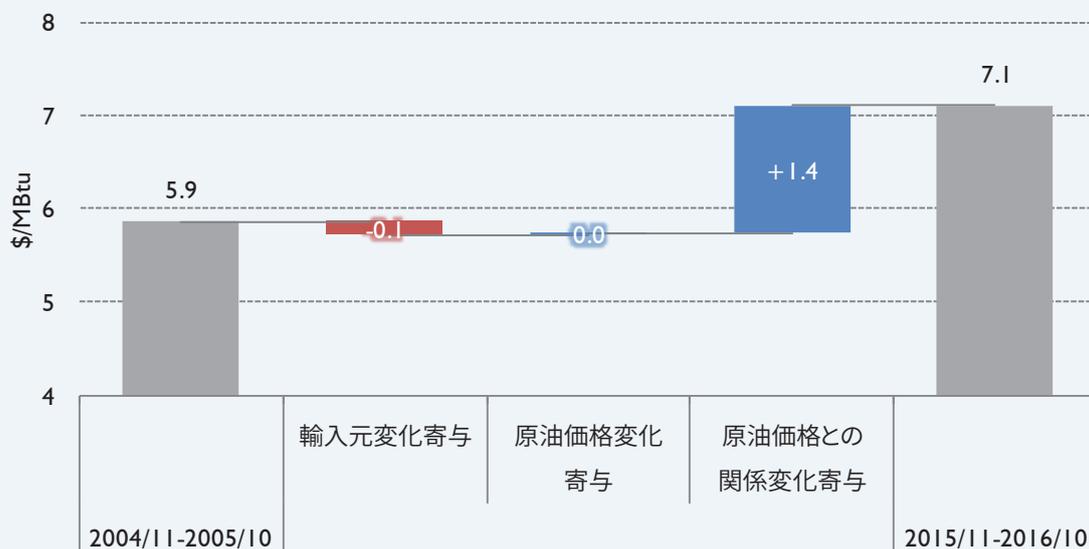
## 要旨

2016年10月の日本の液化天然ガス(LNG)輸入価格は\$7.23/MBtuと、2014年までの\$15/MBtu以上の水準と比べると半値以下にある。原油価格の急落がLNGの値下がりをもたらした格好である。LNG—そしてそれを原燃料とする都市ガスや電力—の需要家にとっては、喜ばしい話である。

しかし、それはもろ手を挙げて、というものではないかもしれない。なぜなら、LNGは需給緩和にもかかわらず以前の水準までは下落していないからである。例えば、原油価格(3か月ラグ)は、この1年平均で\$43/bblと、11年前の\$44/bblと同程度である。対して、ここ1年のLNG価格は、11年前の\$5.9/MBtuに比べて\$1.2/MBtuも高い\$7.1/MBtuである。その結果、LNGは—熱量あたりで見れば原油より廉価ではあるものの—以前に比べて割高になっていることになる。

11年前のLNG価格と足元のそれとの差を、①輸入元変化寄与、②原油価格変化寄与、③原油価格との関係変化寄与に分解した。それによると、原油価格とLNG価格の関係変化がLNGの割高化に大きく影響しており、その寄与は\$1.4/MBtuにもなる。これは、LNG輸入支払いを年5,000億円規模で増大させている勘定になる。

図 | LNG価格変化への寄与[2004年11月～2005年10月→2015年11月～2016年10月]



こうした原油とLNGの関係変化の原因としては、約10年続いた原油価格の高騰を指摘しうる。高油価期に締結されたLNG長期契約では、フォーミュラの変化を通じた割高化がささやかれていた。原油価格の極端な高値は過ぎ去ったが、その後遺症はいまなおこうした形で残存している。

原油価格リンクのLNG価格は、不安定な原油価格を通じて消費国に追加的な負担を課す一因ともなる。原油価格リンクの合理性は希薄化している。LNG価格決定方式の多様化促進、さらには柔軟で流動性のあるLNG市場の発展とLNG需給を反映する指標価格の形成が期待される。